

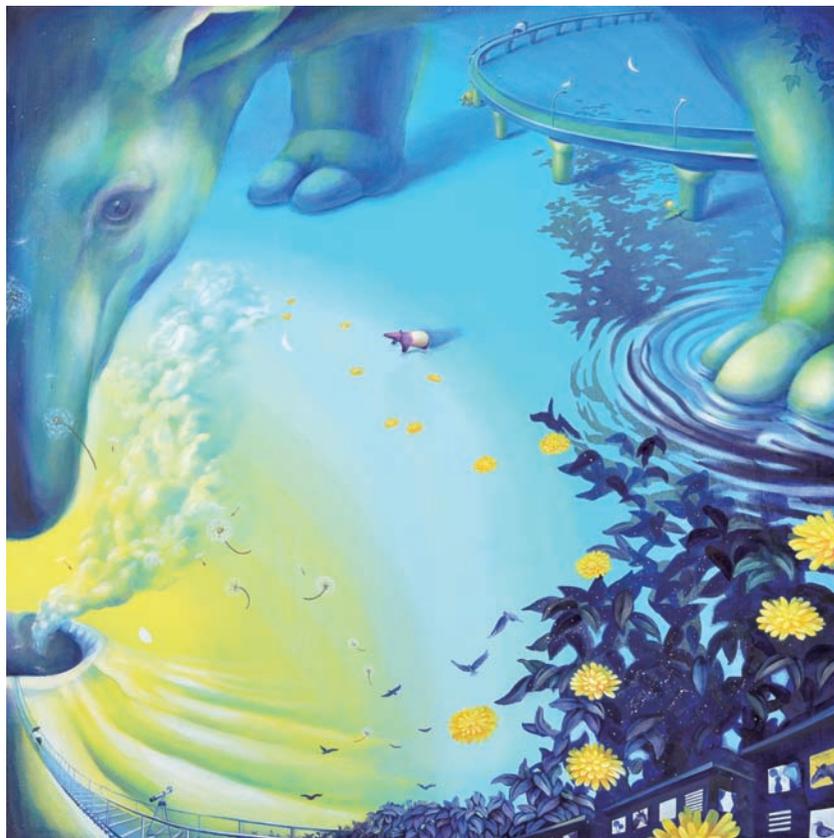
第50回

川  
KAWASAKI CITY

市 かわ  
美 わ  
術 さ  
展 き

入賞・入選作品集

主催 川崎市、かわさき市美術展運営委員会  
後援 川崎市教育委員会  
協賛 川崎信用金庫、セレサ川崎農業協同組合(50音順)



【平面】 <sup>ばく</sup> <sup>むび</sup> 獾の夢寐  
吉永 蛭

夢寐とは、「眠って夢を見ること。また、その間。」という意味です。  
小さな獾（中央）の夢が、壮大な風景を生み出し、世界を創造するようなイメージで描きました。  
今後も「夢と現実が混ざり合う風景」をテーマに、新しい物語を創っていきます。



土の材質に素直になって  
やわらかい土に触れて自由な気持ちになり夢中になって形ができる。その形に私のところの中に風が吹き、線となって踊り、跳ねる。とても楽しい時間である。子供の頃アスファルトの道路に、蠟石で線を引いて暗くなるまで遊んだことを思い出す。

【工芸】 風の波  
古家 郁子



泥脚佩雲

生きることは儘ならぬ現実との闘いである。いわば現実という泥道を歩いているのだ。而してどれほど深くぬかるみに嵌ろうとも、脚を踏ん張って一步一步踏み出せ。さてこそ空高く流れる雲を仰ぎみて、迷うことなかれ。

【彫刻・立体造形】 泥脚佩雲  
田平 徹



【書】 万葉集三首  
木下 清華

万葉の歌を三色の紙にどう表現するか。構成・文字のバランス・線の強弱等苦心しました。三首を漢字・新和様・かなの書体でそれぞれに書いてみたのです。

目にとめていただきとても光栄です。有難うございました。



【写真】 鈍色の街  
渡辺 忠

信州のある街。  
かつての賑わいが嘘のような大通り。  
午後の光に照らされ、何かを訴えるようでした。  
黒でも灰色でもない深い鈍色で…。  
これからも美しさ、悲しみ、喜びの心象風景を撮り続けたいと思います。



この部門で最後の機会に賞を頂き、これからもつくっていきたい気もちです。

【中高生】 日  
田中 桜子



みんな違った個性を持っているから、おもしろい。そして、それぞれの個性がひとつに集まった時、互いを認め合った時、とても素晴らしいものが出来上がると私は思います。  
世界中が平和になりますように。

【中高生】 SPECIES  
山崎 来

最優秀賞

平面	獏の夢寐	吉永 蛍
----	------	------

特 選

工芸	風の波	古家 郁子
彫刻・立体造形	泥脚佩雲	田平 徹
書	万葉集三首	木下 清華
写真	鈍色の街	渡辺 忠

ヤング大賞

	日 SPECIES	田中 桜子 山崎 来
--	--------------	---------------

優 秀 賞

平面	ヘビクイワシ	鈴木 英里子
彫刻・立体造形	an apple	岡本 恵
工芸	Legacy #7	篠原 利江
書	蘇東坡漢詩	大室 景石
写真	祭り人の瞬刻	三竹 基弘
中高生	朝陽の瞬き	前里 優
	日	鎧 嘉論
	褚遂良法帖集 臨書	木川 智広
	過去と現実の反芻	井上 ひかり

50回記念特別賞

平面	鬣 ドリーム	黒沢 進士
工芸	民家園の月 (サンドブラスト)	菅原 行男
書	八十路	田辺 翠香
写真	幸せの予感	牧山 俊雄
中高生	ほくたちのジオメトリック	野川中9組 (特別支援級) 34人

奨 励 賞

平面	あいちゃんの思い出の夏	小林 房雄
	時空	直井 登子
	「何処かにしまわれた手紙」	村田 眞一
	森羅万象一元曼荼羅	早乙女 和完
	地霊	磯野 悦郎
	CROSS	亀ヶ谷 豊
	景 I	古畑 徹
	PLATINUM FISH	玉生 由香
彫刻・立体造形	オトンと「ヒソヒソ」「ワイワイ」	砂田 紘子
工芸	寄せる…	横山 倫子
	冬来たりなば・・・	福田 典子
	ふれあーwinterー	岩下 はるみ
書	漢訳 井田小学校校歌	田辺 談窓
写真	瞳	東 栄子
	野辺の花 (福島県双葉郡富岡町)	新井 義弘

平 面

夫婦	千葉 純子
アダンの森で… (美ら島)	村井 早苗
庭の夢	近藤 るん
古代エジプト・アクエンアテンの肖像	近藤 若子
街行く人	森田 隆
夕景	伊集院 公子
化石の杜	齋藤 政義
路線図—緑編	後藤 恵美子
太古の詩	青木 和江
Resurrection (復活) II	芳賀 徹
花のあるテーブル	西 益子
潮騒	郭 鐘洙
森の宴 (結界)	松田 洋子
Lunatic mare	青天目 愛弓
ストリートミュージシャン 2016	藤田 久美子
化身	濱田 睦
2016 かわさき	碓井 義忠
実存	関口 静夏
葡萄畑で見たもの	坂本 松男
夕色の頃	席谷 孝子
東慶寺の梅	塚原 春夫
無題 (2016A)	道古 明
受胎告知	稲葉 基泰
公孫樹～秋深～	前田 恒憲
シミマイ	津田 邦彦
Sunrise in the City『日の出』	森山 貴広
母の日の夢	阿部 泰樹
我も昔は男山・今や楽阿弥孫すさび	安田 文夫
花ふる町	島田 早苗

工 芸

もうすぐ春	中村 洋子
花器	鈴木 健祭
ハバロフスク図書館	小川 和男
衣器Ⅲ	家才子 雅樹
染付・風にそよぐ葛文 大皿	若尾 魁山
Composition 水—睡蓮	内山 あさ子
桐塑和紙貼人形「ぶらさがりごっこ」	細谷 博行
うまれる	五十嵐 里美
デュエット—花器—	新井 佳子

書

有朋自遠方来不亦楽乎	角田 爽玉
龍藏寺碑字帖	高野 弘美

写 真

欲望	鈴木 喜久郎
群像（老若男女）	酒井 昭夫
輪島の朝	小田柿 雅彦
小さな時めき	渡邊 孝行
夕暮れの川崎港	坂本 泰男
港町十三番地	庄司 精一
月光	安川 健一
早春のこかげ	鳴海 廣治
「喜びの朝」「充実の夕暮れ」（生田緑地奥の池）	丸山 圭子

中 高 生

2017年はとり年	永井 武志
間	高木 一文
君と同じ空の下	宇田 有麻里
春はどこだ？	戸塚 稀里子
石の色 丹沢の景色	中西 うらら
New York City #1-4	平松 航輝
Space air	茂木 菜々
スマホの宇宙	宮崎中学校美術部共同制作
十七歳。	岡本 結生子
無限大の愛を受け取れきれない私の器	山下 真佳
Scrap & Build	日野 和博
言葉の暴力	池田 光里
Summer memory	石原 喜一

※ 各項目の作品名・作家名の順番は、応募受付順です。

## 総評 藤嶋 俊會（審査委員長、美術評論家）

各部門から特選を1点ずつ選んで一堂に集め、各部門の審査員が推薦の弁を述べて、投票に入るといふ過程をこのところ続けている。作品を一堂に並べる段階からどの作品がとるだろうか、今回はこれかなという期待と緊張感が審査会場に流れている。

平面の特選、吉永蛸の油彩画「獺の夢寐」は、これまでの市美展では見たことのない作品で、しかも若い人らしい奇想天外な世界を絵にしている。獺という実在の動物でもあるし、夢を食べる伝説上の動物でもあるところをファンタジックな画面に仕上げている。獺の形の大きさを変えることによって現実感を失わせ、シュールな感覚を強めている。技術的にも破綻がなく安定しており、絵画の可能性を感じさせる。

彫刻・立体造形は、木を削って黒く着色して飄々としたオブジェ風の人体に仕上げた田平徹の「泥脚佩雲」。現代社会に対する作者の前向きなスタンスが表れている。

工芸は古家郁子の「風の波」、堂々とした横長のやきものによる花器で、細い線描きも稚拙ながら良い効果を出している。

書の水下清華「万葉集三首」は、書き方も縦長に漢字、漢字仮名交じり、かなという3通りの書き方を一堂に集めたもの。視覚的にも完成された境地を示していた。

会期と搬入時期の関係で写真の応募はかなり減少したようだ。渡辺忠「鈍色の街」は、シャッター商店街の不気味な光景を捉えたカットである。現実そのものの風景なのだろうが、普通の目では見過ごしてしまうような風景が映されている。

市長賞の決定は、各自2票の付箋を貼ってその結果を見ることにした。結果は平面10票、書と工芸が各5票で、すんなり平面作品に決まった。コンクールは、毎年出品しているベテランの安定した作品が評価される時きもあれば、颯爽と新人が登場する時きもあって、今回はいかにも新人の登竜門らしい市美展になったのではないだろうか。なおヤング大賞は、2点が候補になったが、どちらも甲乙つけ難しということで、田中桜子「日」と山崎来の「SPECIES」、ともに受賞した。

## 平面部門 原 健（東京造形大学名誉教授）

油彩画、日本画、水彩（アクリル画）、版画と、その分野による素材や技法は多技にわたり、サイズも様々ですが、7人の審査員による慎重な選考によって入選を決め、その後、付箋などによる投票を繰り返して入賞作、そして優秀賞、特選等を選出いたしました。

今回は全般的に技法のメチエの違いのみならず、多様なイメージや空間をそれぞれに追求されている作品が多く見られバラエティーに富んでいました。そして、豊かな平面絵画の展望が感じられますし持続的で精進されている展開がみられました。

最優秀賞となった、吉永蛸「獺の夢寐」は、透きとおる広漠としたグラデーションの空間に、巧みに構成された獺のまなざしが印象的で、細部まで克明に描かれたモチーフや構造物の円弧は、空間にスパイラルな動勢をうみ深淵な作品となっています。優秀賞となった鈴木英里子「ヘビクイワシ」は、木版画ながら革新的な技法に精通し、和紙の柔軟性と硬質な描線による描写は新たなクオリティある絵画空間を表出している。奨励賞の玉生由香「PLATINUM FISH」は、柔和で豊かな感性とパステル調の美しい色彩が散りばめられ、直井登子「時空」のダイナミックで強靱な手法による表現も注目させられ、亀ヶ谷豊「CROSS」による新鮮でクールな空間表現など、上位受賞の候補として高く評価されました。

## 彫刻・立体造形部門 藤嶋 俊會（美術評論家）

川崎は大都市である。彫刻・立体造形部門に6人の応募者しかいなかったとは考えにくい。潜在的には大勢の彫刻家が住んでいるはずである。きっと目は多摩川の向こう側に向いていて、地元の動きに気が付く余裕がないのかもしれない。地域の潜在力を掘り起こさなくてはならない。

さて彫刻・立体造形部門の審査だが、やはり見栄えのする作品を選ばざるを得ない。特選の田平徹「泥脚佩雲」は、泥に脚をつけて踏ん張り、雲を佩びる、つまり現実にとどっぷり浸かりながらも決して世間の色に染まることなく、清らかな心境を目指す意のタイトルをつけている。彫刻はモニュメンタルな形を追求する表現である。そのためにはぎりぎりの形を追求して、そこにある象徴的な感情が流れていなければならない。この時代においてこのタイトルが意図しているのは、希望のない世ではあっても夢は捨てないこと、人間の生き方に答えはないことを暗示しているのではないだろうか。雲は東洋的な境地を暗示するのによく登場するアイテムである。

優秀賞の岡本恵「an apple」は、いろいろな繊維をさまざまな織によって繋ぎ合わせて集積したものである。作品は一見重々しく見えるが、植物繊維の自然素材感が清々しく感じられる。

奨励賞の砂田紘子「オトンと「ヒソヒソ」「フィワイ」」は陶芸によるボール状の作品で、一定の間隔で展示されると、個々のボールが活気づいて見えてくるところがこの作品の見どころである。ボールの重ね方、ボールに空けた穴などが人間の目鼻や身体に見えて来て、話し声さえ聞こえてくる作品になっている。

## 工芸部門 春山 文典（金工作家・横浜美術大学前学長）

今年で50回記念ということだが、工芸部門の搬入は31点、去年は35点で僅かに減少。作品の傾向は小形化し表現に勢いのあるものが少なかった。そのなかで特選作品の「風の波」陶作品。長楕円形の底面から起ち上がった雄大な姿をした側面にあって稚拙な引掻線の模様が効果的で優れた作品。優秀賞は「Legacy #7」キルティング作品。下端にタッセル状にパターンの一部を下げた変形である。緻密なミシン目、グラデーションのある色面が美しいハーモニーを醸し出している優れた作品。

奨励賞は4点あり、織作品「寄せる…」は3枚組で流紋がりリズム感を生み出している。七宝作品「冬きたりなば…」は抽象化された人物、植物による優れた構成力のある作品。磁器作品「ふれあーwinterー」は、4枚組で一個一個が緊張感のある美しい形体の構成から成り立っている。

ガラス作品「民家園の月」サンドブラスト技法によるスクリーン状の作品。照明により画面が美しく浮かび上がり効果的である。尚第50回記念特別賞も併せて受賞。以上、受賞作品であるが、入選作品15点の内訳は、陶6点、染織（キルティング含）3点、七宝2点、ガラス2点、人形、紙各1点となり、他の分野の金属、漆、竹、木、藤等の出品応募に期待する。

## 書部門 古谷 稔（書美術評論家）

本年度書部門は11点の応募に対して6点の入選となった。各作品を通覧すると、全体的に必ずしも十分とはいえないが、書の古典学習を踏まえて臨書または創作に意欲を注いだ形跡がうかがえる。

今回、とくに注目した作品は、特選の木下清華「万葉集三首」である。三段貼りの額装に仕立て、色違いの三種の染紙に万葉集を各一首あて書いたもの。上段には万葉仮名のみで、中・下段は漢字と仮名を交えて散らし書きにまとめ、上中下各段を違った趣に仕上げた変化に富む作品である。背後に平安古筆の和の美をにじませ、墨の濃淡や渴筆も取り混ぜた、筆力を蔵した質の高い優品である。

優秀賞の大室景石「蘇東坡漢詩」は楷書を基本に縦長の料紙に大らかにまとめた作品で、清楚な書風を醸成している。奨励賞の田辺談窓「漢訳 井田小学校校歌」は、原作の日本語で作詞された校歌を漢詩につくり、隷書の漢字書風で表わした力作である。50回記念特別賞の田辺翠香「八十路」は和歌一首を半切に散らし書きした思いをこめた記念の作である。

このほか入選には、角田爽玉「有朋自遠方来亦乐乎」の、『論語』の一節を金文で書いた珍奇な作品、および高野弘美「龍蔵寺碑字帖」の、丁寧な楷書による臨書作品が選ばれた。

次回には、書のさらなる意欲作を期待する。

## 写真部門 小池 汪（写真家）

半世紀にわたるかわさき市美術展の写真部門は応募が25人という、去年の応募者数32人から漸減という結果であった。

かわさき市美術展のはじまった半世紀前、写真はフィルムを入れたカメラを構えなければつくることができなかった。いま、写真をつくる手段は大きく広がった。携帯電話やスマホ、タブレットなるものも出現して川崎では50年前にくらべれば想像もできないくらい写真はつくられているのに、応募は至って少数である。

応募の25人は勇者であると言いたい。

この勇者たちの作品をすべて壁面に飾りたかったが、ここは創造の高さを問う場である。未来を見つめ、応募の中から入賞5点と入選9点を選んだ。

カメラを向ける対象から創られる写真は創造物としての魅力を深く持ち作者の「何を訴えるためにこの写真を撮ったのか」が見る側に強く伝わらねばならない。

入賞・入選作品にはメッセージとそれを支える技術があった。

特選の「鈍色の街」は暗雲の下、シャッターを閉じた商店街、すずらんの色をした街灯の派手さ、双方のコントラストに作者の発信が感じとれた。「祭り人の瞬刻」からはすさまじい気魄を、「野辺の花」には作者の問題意識を感じとれた。

中高生の部では民家と民家の隙間に眼をむけた「間」を評価した。対象への細やかな観察眼は写真創造の第一歩である。

シャッターを押しただけでは対象の説明性を多くぶらさげて創造物となり得ず、単なる説明物となってしまう写真。強い自分の言葉をもつ作品づくりに、さあ前進しよう勇者と若者たち。

## 第 50 回かわさき市美術展 入賞・入選作品展

会期：平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）～平成 29 年 1 月 14 日（土）

会場：川崎市市民ミュージアム 企画展示室 2

### 第 50 回かわさき市美術展運営委員

#### 運営委員

大矢 紀  
勅使河原純  
登尾日出男  
宗澤 文良  
渡辺 奈々

川崎市市民ミュージアム館長  
川崎市市民ミュージアム副館長  
川崎市市民ミュージアム教育普及担当課長  
(公財)川崎市生涯学習財団川崎市市民ミュージアム学芸室長

### 第 50 回かわさき市美術展審査委員

#### 審査委員長

藤嶋 俊會

#### 平面部門、彫刻・立体造形部門

小河 朋司 四方 幸子 杉下 城司 中野 嘉之  
原 健 藤嶋 俊會 山縣 壽夫

#### 工芸部門

唐澤 昌宏 春山 文典

#### 書部門

豊口 和士 古谷 稔

#### 写真部門

小池 汪 英 伸三

(50 音順、敬称略)

### 過去 10 回のかわさき市美術展応募及び入賞・入選状況

回数・年度	応募者数	応募作品数	入賞・入選者数	入賞・入選作品数	入賞者数
第 41 回 (平成 19 年)	274	432	216	249	33
第 42 回 (平成 20 年)	274	455	187	248	34
第 43 回 (平成 21 年)	309	498	205	247	42
第 44 回 (平成 22 年)	264	421	174	204	45
第 45 回 (平成 23 年)	279	279	87	87	32
第 46 回 (平成 24 年)	214	214	89	89	32
第 47 回 (平成 25 年)	271	271	112	112	37
第 48 回 (平成 26 年)	197	197	93	93	37
第 49 回 (平成 27 年)	216	216	108	108	35
第 50 回 (平成 28 年)	192	192	98	98	36

### 第 50 回 かわさき市美術展 入賞・入選作品集

主 催 川崎市、かわさき市美術展運営委員会  
後 援 川崎市教育委員会  
協 賛 川崎信用金庫、セレサ川崎農業協同組合(50音順)  
編集・発行 かわさき市美術展運営委員会  
〒 211-0052 川崎市中原区等々力 1-2  
川崎市市民ミュージアム  
TEL 044-754-4500 FAX 044-754-4533  
発 行 日 平成 28 年 (2016 年) 12 月 23 日  
印 刷 日本プロセス株式会社 TEL 044-812-2511



KAWASAKI  
CITY  
MUSEUM

川崎市 市民ミュージアム